

海外巡礼地調査報告

I 2008年度フランス巡礼地調査

調査概要

愛媛大学法文学部教授

内 田 九州男

旅程図（図1）を使って私共のフランスの巡礼地の概要を述べたい。細かい内容はこの次に岡村先生と私とで報告するのでそれを参照願いたい。

図1に旅程図を掲げた。この図は、山川先生がフランスの鉄道図に旅行ルートを書いて提供して下さったものに私が日本語で都市名をいれ、かつルートを黒線に入れる等修正を加えたものである。

私たちは、そこの日程表（表1）に記してあるように、9日に関空を出発してその日にパリに着いたという形になった。翌日パリからランスに行き、そこの大聖堂を見学して、それからパリに戻り、引き続いてパリ市内で巡礼関係の調査を行なった。パリは2007年度に調査を行ったサンチャゴ巡礼と非常に関わりが深い地域であるので、岡村先生にご案内を頂き、サンジャックの塔などサンチャゴ巡礼に関わる部分と、主要な寺院を見学した。

11日はパリからレンヌに行き、そこからバスに乗り、モン・サン・ミシェルというほとんどフランスの北の端のようなところに行き、こゝを調査した。これは私が後で詳しく報告する。

調査後レンヌに帰って宿泊し、翌日、今度はレンヌから鉄道を使ってリヨンに行った。それからディジョンという所へ行ったが、パリの側を通るいい特急があるということで、これを使わせてもらってディジョンに行ったわけである。こゝではブルゴーニュ大学に行った。この大学は愛媛大学と研究提携をしている大学で、表敬訪問と私たちの巡礼研究に対する協力をお願いをしてきた。

翌日、ディジョンを出て、ずっと南に下ったトゥルーズまで行った。今度はこゝを基地にして、翌日ルルドに行ったのだが時期が大変まずかった。ルルドは普通であれば特急が停まる駅であるが、冬場のシーズンオフということで各停しか停まらなくなっていた。想定とは違う状況になってしまい、かなり時間の無駄をしてしまった。そして、ルルドに行き調査をした。それからまたトゥルーズに戻って、翌日トゥルーズの市内を少し見て、帰路に着いた。トゥルーズには地方空港があるので、ここからアムステルダムを経由して成田に帰るといふ、こういう行程で動いたわけである。

印象としては、特急ばかりに乗って走り回っているという感じであった。もうひとつは大寒波である。私はこんなことを体験したのは初めてで、-5度から-6度という、いきなりこういう世界に飛び込んでしまったわけである。「大寒波」の写真（図2～5）はブルゴーニュである。先ほど述べたように初日ランスに行ったが、ここも大体同じような気温であった。ブルゴーニュはランスよりもっと内陸部である。大学に行ったら、樹氷がこんな形で出ていた。それから図3は枝垂れ柳あるいは枝垂れ桜のような格好だが、完璧に樹氷がついて垂れ下がってしまっていた。次に図5。これは、私は初めて見たので写真を撮ったのだが、消火栓に鎖がついていて、それに白っぽいものがこびりついている。これは氷である。空気に含まれている水分がこの鎖に触れて逆に冷えてしまい、樹氷化したようだが、こんな光景を目にするのは初めての体験であった。草に付いている水分が全部氷化してしまって草も白くなっているというすごい寒波であった。この寒波の被害は後で述べる。私たち3人は、パリ、モン・サン・ミシェル、ルルド、大体この3カ所を主として調査した。

表 1

日程表	
1月9日	関空発ーパリ着
10日	パリーランス (移動)
	ランス調査
	ランスーパリ (移動)
	パリ市内調査サンジャックの塔等調査
11日	パリーレンヌ (移動)
	モンサンミシェル調査
12日	レンヌーリヨンーディジョン (移動)
13日	ブルゴーニュ大学訪問
	ディジョンートゥルーズ (移動)
14日	トゥルーズールルド
	ルルド調査
	ルルドートゥルーズ (移動)
15日	帰路：トゥルーズーアムステルダムー成田

図 1 旅程図

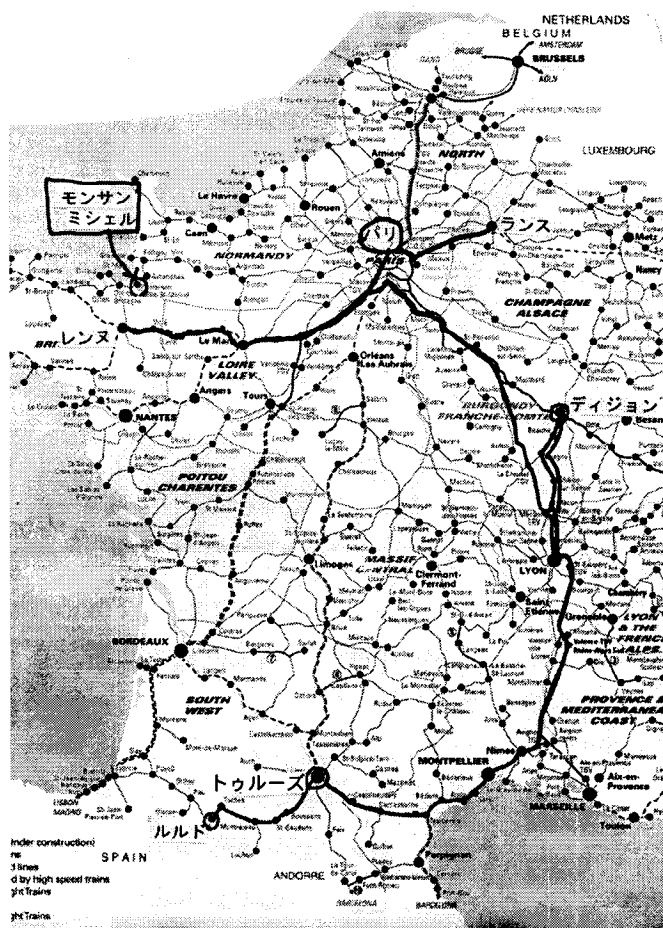


図 2 校庭の樹氷 1



図 3 校庭の樹氷 2

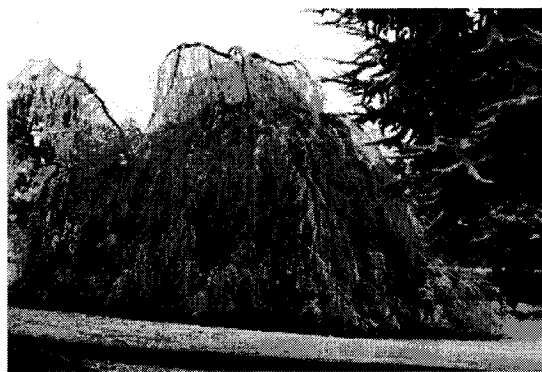


図 4 校庭の樹氷 3



図 5 凍てつく消火栓

